

中学部 生活に生かせる力を伸ばす授業改善

1 はじめに

中学部は生徒数29名、学級数7学級、うち1学級が重複障害学級である。今年度は二つの分校が組織統合された統合1年目であり、多くの生徒が転入したため、生徒の実態把握や指導計画の練り直しに努めている。

中学部では、「生きる力」を「生活に生かせる力」と捉え、年間のテーマを「チャレンジスピリッツ」とし、失敗を恐れず様々なことに挑戦し、その経験が生活に生かせる授業を目指している。

2 目的

- (1) 生活力・学力の向上を図る。
- (2) 生徒一人一人の社会生活に生かせる力をつける。
- (3) 生徒の生活水準の向上を図る。

3 方法

- (1) 生徒が授業に集中しやすく動きやすい環境の整備を行う。
- (2) 生徒一人一人の実態把握を行う。
 - ・前担任からの引き継ぎの実施
 - ・保護者からの聞き取り（個人懇談）
 - ・各種発達検査の実施
 - ・個別の指導計画の確認（前年度までのものを参考にする）
 - ・日々の行動観察
- (3) 生徒の実態に応じた個別の指導計画・年間指導計画の作成を行う。
 - ・指導目標の設定
 - ・指導内容と指導方法の検討
- (4) 生徒が主体的に活動するための授業のあり方の検討を行う。
 - ・学習指導案の作成及び検討
 - ・教材・教具の工夫
 - ・ティームティーチングのあり方
 - ・場面に応じた適切な言葉掛けのあり方
 - ・成功観・達成感を持たせるための指導のあり方
 - ・体験的な学習の計画・実施
- (5) 授業自己評価シート、参観者評価シートを活用して授業改善を行う。
- (6) 指導記録の分析や授業の評価を行う。

4 実践内容

(1) 授業改善のための指導仮説

授業改善を行うに当たり、過去の授業における指導の成功例や失敗例、授業中

の言葉遣いや言葉掛けによる生徒への影響等をテーマに話し合いを行い、よりよい指導方法について仮説をたてた。

ア 見通しや終わりが明確になっていると、落ち着いて授業に参加できるのではないか。

イ 指示されたことを達成できた時や自主的な行動が見られた時には、その場ですぐに褒める。成功体験をたくさん積ませることで何事にも自信を持つようになるのではないか。

ウ 「あと、もう少し」の言葉掛けは生徒の見通しが立ちにくいので、言葉カードや絵、写真カード、時計等を使って具体的に示すのがいいのではないか。

エ 普段から生徒とのコミュニケーションを積極的にとることにより、生徒の興味・関心を知り、授業の題材や導入部分として活用することが大切ではないか。

オ やってほしいこと、大事なことなどに番号を打ち、簡潔に絵など用いながら丁寧に繰り返し説明することが大切ではないか。

カ 言葉掛けや支援が多すぎると指示待ちの生徒が多くなり、考える力や実践する力が育たないのではないか。

以上のような仮説と前述の指導方法を中学部として共有し、授業実践に当たった。ここでは、中学部2年生の生活単元学習と1年生の国語科の授業を紹介する。

指導のねらいをきちんと整理することや研究授業後の授業自己評価シートや参観者評価シートで明らかになった課題を分析し、次の授業改善に生かすことを確認して授業をスタートさせた。

(2) 授業実践 2年生 生活単元学習

「宇和町の特産物を通して地域を学ぼう」という単元で授業を行った。

ア 指導のねらい

(ア) 一日の大半を過ごしている宇和町のことを知り、自分の住んでいる地域に目を向け、良さに気付く。

(イ) 体験を通して、知識を身に付け責任を果たした満足感を味わい、働くことの楽しさや厳しさを学ぶ。

(ウ) 人とかかわりを広げたり、公共の交通機関や施設を利用するときのマナーなど社会生活に必要なことを身に付ける。

(エ) 教科学習や総合的な学習の時間と関連させ、生活する上でのいろいろな知識や技能、態度を身に付ける。

(オ) 一人一役で分担して取り組み、自分の役割を果たすことの大切さや喜び、協力することのすばらしさを実感する。

以上の5点を主な指導のねらいとし、中学部の焦点授業を行った。

次の表は、その際の授業の展開過程である。

時 間	学習活動	教師の支援と手立て・評価の視点 □		
		A～E	F～I	J～M
10:45 (3分)	1 はじめのあいさつをする。 本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 教師が大きな声であいさつをして手本を示す。(T1～T6) 元気よくあいさつをしていたか 注目するように言葉掛けをする。(T1) T1に注目するよう言葉掛けをする。(T2～T6) 宇和町の地図模型を仕上げ、特産物を深く知ることを伝える。 学習内容が分かったか (T1) 		
10:48 (7分)	2 特産物の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 特産物を思い出し、挙手をして発表するように促す。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> 特産物カードを見せ、言葉で確認する。(T2・T3・T5) 	<ul style="list-style-type: none"> マッチング(文字と絵、絵と絵)ができるように特産物カードを示す。(T3・T4・T6)
10:55 (8分)	3 本時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 不必要なものを置かないなど、学習に集中できる環境整備をする。 視聴覚教材やしおりを用いて確認する。(T1～T6) 視聴の際に、生徒の様子を見ながら思い出すような言葉掛けをする。(T1) 集中して視聴をするように言葉掛けをする。(T2～T6) 生徒が発表するのを待ち、発表に時間が掛かるときは、発表しやすいような雰囲気作りをする。(T1) 		
11:03 (20分)	4 地図模型を仕上げる。 ・地形(山、川など)を立体化する。 ・土地利用の様子(田畑)を立体的に表現する。 ・公共施設を配置する。 ・製作した特産物(米・茶・ぶどう・いちご)を配置する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を理解し、主体的に活動するまで待つ。(T1) 時間が掛かるときは必要最少限度の言葉掛けをする。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> 補助教材などを使って自分で活動するように言葉掛けをする。(T2～T6) 場合によっては手を添えるなどの支援を行い、生徒の活動量を多くする。(T2～T6) 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材やしおりに注目できていたか 発問に対応できたか
11:23 (2分)	5 次時の予定を聞く。 おわりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 注目するように言葉掛けをする。(T1) T1に注目するよう言葉掛けをする。(T2～T6) 注目して聞いていたか 教師が大きな声であいさつをして手本を示す。(T1～T6) 元気よくあいさつをしていたか 		
11:25				

イ 授業評価シートより

宇和町の地域学習をスタートさせ、授業自己評価シートや参観者授業評価シート等を通して様々な改善点を指摘された。

〔生徒の様子〕

- ・生徒が何に興味を持ったのか分かりにくかった。
- ・本時で学んだことを生活力にどうつなげていくのかが不明である。
- ・生徒の実態からは難しすぎる内容ではなかったか。
- ・地図の意味が分かる生徒がどれくらいいるのか疑問であった。
- ・生徒同士が手助けする場面が設定されていてよかった。
- ・授業に集中し、積極的に意思表示を行う生徒がいてよかった。
- ・スクリーンがよく見える位置の生徒は意欲的に活動できていた。

〔環境設定〕

- ・授業の流れを視覚的に示す必要のある生徒がいたように思う。
- ・学習の時間なので机が必要ではないか。
- ・掲示した表や作品がきれいで、分かりやすかった。

〔支援〕

- ・生徒を待たせる時間が長いのではないか。
- ・生徒一人一人の活動時間が少ないのではないか。
- ・「中学生」を意識した言葉掛けが必要ではないか。
- ・分かり易い言葉と幼い言葉とは違うのではないか。

ウ 改善点及び成果

以上のような指摘を受け、それぞれの指摘事項について、分析を行い、次に示す地域学習の各单元において、ティームティーチングを重ねながら授業改善を試みた。

(ア) 宇和町の地図模型を作る。

学年集団での調べ学習は、ややもすると特定の生徒に活動の場が限られがちだが一人一人に明確な役割分担を行い、自分の責任を果たすよう指導した。

その結果、漫然と集団で行う制作活動ではなく、個を意識した活動になり、実際の生徒個々の活動量も増えてきた。

(イ) 市役所やどんぶり館（道の駅）、米博物館の様子や役割を調べる。

生徒の主体的な活動の大切さを認識することにより、事前に質問項目を考え、質問したり、デジタルカメラで自ら撮影ポイントを考え、撮影したりするなどの達成感を感じさせる指導を行った。

(ウ) 学習発表会で成果を披露する。

今まで取り組んできた地域学習を学習発表会で発表する際に、様々な場面において生徒の主体的な活動となるよう教師集団で話し合いを行った。

道具作りにおいても、生徒一人一人に細かな課題を設定し、言葉掛けや支援の量を考慮しながら活動した。

(エ) 宇和町の特産品を使った調理実習を行う。

「生活单元お手伝い学習」にならないようにすることが大切であると考え、調理実習の单元においても、ワークシートを活用するなどの工夫を行った。また、生徒個々の実態に応じた課題を設定し、達成感と自信をつけるための補助具を活用したり、言葉掛けを行ったりした。

エ 課題

日々の指導の中で、いかに支援を減らし、生徒の主体的な活動へと導いていくか、集団学習のなかでの個を意識した活動はいかにあるべきかなど、生徒の実態を知ることは、もちろんであるが、きめ細かい環境整備や指導計画、ワークシートの活用、発問の仕方やスムーズな授業の流れの在り方など課題は多い。今後も、一つ一つの課題を整理し、目標を達成するための授業改善を図っていきたい。

(3) 授業実践 1年生 教科学習 (国語)

「とべ動物園について調べよう」という单元で授業を行った。

ア 指導のねらい

本グループは、1年生を習熟度に応じて2班に分けたうちの1班である。生徒の実態は様々であるが、日常生活で使う言葉が決まっており語彙がなかなか増えないという共通の課題がある。

本单元では、校外学習の行き先である「とべ動物園」の中で、自分が興味を持ったストリートについてホームページから調べ、それをストリートブックとしてまとめて発表するという活動を取り入れた。この活動を通して日常生活に必要な事柄を調べたり、伝え合う力を高めたりするとともに、それらを活用する能力と態度を育てることができるものとする。

学習指導計画は、以下のとおりである。

- 第1次 とべ動物園のおおまかな様子を知る・・・2時間
- 第2次 調べたいストリートを選び、調べる・・・1時間
- 第3次 ストリートブックを作る・・・・・・・・・・4時間
- 第4次 まとめた内容を発表する・・・・・・・・・・1時間

この单元では、最後にまとめた内容を他学年の生徒達の前で発表する機会を設けている。人に伝えることを意識することによって、まとめることに対する意欲を引き出したり、丁寧に文字を書いたり、発音や速さなどに気を付けて話したりできるようになるのではないかと考える。

イ 改善点及び成果

(ア) 自立的支援

a 環境設定について

- 導入の工夫：フラッシュカード形式の足跡クイズをすることによって、とべ動物園への関心が高まった。
- パワーポイントの活用：ストリートごとの動物を実際に映像で見ること、どんな動物がいるか理解し、動物園を図示したワークシートに意欲的に記入していく生徒が多かった。
- 自分が選ぶ場面の設定：自分が興味のあるストリートを選び、そのストリートについてまとめることで、自分の役割を意識したりまとめたりする意欲が高まった。
- 個々の実態に応じたワークシート（図1）：資料（図2）と照らし合わせながら項目などを集中して探す場面が見られ、自分でまとめていく姿勢が生まれた。

b 支援について

- 友達と競争する：地図から、学校がある西予市、自宅の住所、砥部町などを競争して探すと集中できた。先に見つけた生徒が、他の生徒に教える場面も見られた。
- 活動の見通しを持つ：自分がまとめたストリートブックを掲示し、担当のストリーートの動物を中学部全体の事前指導で紹介するという見通しを持つことで、「丁寧にまとめる」「分かりやすく伝える」といったことを自然に意識して取り組んだ。



図1 ワークシート

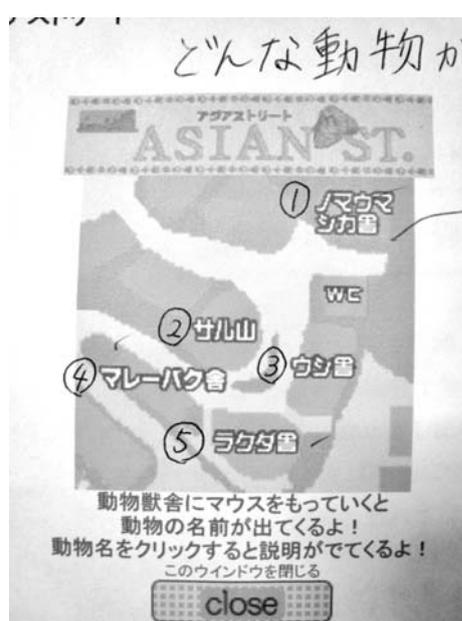


図2 資料（例）

(イ) 授業改善

反省点 (具体的な場面)	考えられる原因	次回への改善策
<p>・作業の取り掛かりに時間がかかる生徒が多かった。</p> <p>・できましたという生徒の報告が重なり、待つ場面が多かった。</p> <p>・教師の支援が多くなる場面があった。</p> <p>・最後の発表では、生徒だけの発表になると聞き取りにくい時があるなど、単調になる。長くなると聞いていない生徒がいる。</p>	<p>・始めに全ての資料を渡したので何から始めたらよいか分からなかった。</p> <p>・生徒の作業量が少なかった。</p> <p>・まとめる資料が難しかった。</p> <p>・発表の方法が分からず、読むだけになる。聞く人は、友達の発表に関心が向かない。</p>	<p>・生徒が分かるように「今からする作業」「次にする作業」を分ける。今からする作業だけを渡すようにする。</p> <p>・「終わった作業」も明確にする。</p> <p>・生徒によっては、手順表を作成し、見ながら作業するようにする。</p> <p>・文章の量を減らすなど、資料をもう少し生徒の実態に合ったものにする。</p> <p>・発問の仕方を工夫する。</p> <p>・発表の方法を決める。紙に書くなどして示す。</p>

(ウ) 成 果

以下の5点が挙げられる。

- 年間指導計画を見直し、身近な生活と関連した、生徒が興味・関心を持って取り組める題材を取り入れた。
- 授業後に「授業自己評価シート」を記入することで、T2との意見交換や生徒の実態把握、次回への改善策を考えるきっかけとなった。記録をとることの重要性を感じた。
- 生徒の実態把握をすることで、目標が明確になり、一人一人の目標を授業の中で意識して、支援した。
- 生徒は「発表する、掲示する」ことを意識し、人に見てもらうことを励みに意欲的に取り組んだ。
- 生徒が、友達の発表を聞くことや授業を通して詳しく学習する中で、とべ動物園について関心が高まり、学習意欲の向上につながった。

ウ 課題

生徒の実態に合った教材を、授業ごとに検討していく必要性を感じた。また支援を減らすためには、見て分かる環境設定を工夫し、生徒が考える場面を設定することが必要である。また、授業では、生徒の反応や様子を見ながら対応し、支援を減らしていくことをT2と共通理解を図ることが必要であり、「授業自己評価シート」の活用、日々の生活での生徒の実態把握や観察が大切である。

5 成果と課題

あらゆる場面において生徒が主体的な活動をしているかどうか検討を重ね、環境や授業の組み立て、補助具の改善等、授業の改善に必要な様々なことに挑戦した。

今回は、授業自己評価シート及び参観者評価シートの活用により中学部の授業における改善点が具体的になった。必要となった改善内容は、授業中の生徒の返事や挙手などの基本的な授業態度、活動量の少なさ、必要以上の支援等である。

そこで、生徒の主体的な活動の中から生まれる達成感を感じさせるための方策として、年間指導計画の見直しや身近な生活と関連した生徒が興味・関心を持って取り組める題材を取り入れる工夫を行った。実践事例でも述べたように校外学習や調理実習などの体験学習を多く取り入れたり、生徒の実態に応じた役割分担を積極的に進めたりすることにより授業態度の改善が見られ、活動量も飛躍的に増大した。また、指導体制による必要以上の支援の問題については、教師の授業への参加人数を減らしたり、教師間で支援内容を事前に確認したりすることにより問題解決を図った。

さらには、「授業自己評価シート」を記入することで授業者同士の意見交換や生徒の実態把握、次回への改善策を考えるきっかけとなった。中学部全体として記録を取ることの重要性を認識し、個別の教育支援計画や個別の指導計画の内容の充実につなげている。

今回、授業改善プロジェクトを実施したことで、生徒一人一人の課題や目標設定を授業の中で常に意識し授業を進めていくことの大切さを痛感した。常日頃から生徒との信頼関係作りに努め、生徒の実態を知り、正確な課題や目標を設定し授業を進めていきたいと思う。

生徒が「自分でできた」と感じるのが、「生きる力」につながる。そのための支援のあり方を今後も研究していきたい。